

コミュニティ回収を実施している地域の声

始める前に地域として一番危惧していたことは？

収集もれ等の未収集があった場合、再生資源事業者では対応してくれないのではないか？と心配したが、即時対応してくれて何の問題もなかった。

古紙が持ち去られることにより、収集量が上がらないのではないか？と考えていたがコミュニティ回収を始めたことで、持ち去る者も地域の目を気にし始めたのか徐々に減ってきた。

コミュニティ回収を実施してよかったこと

「捨てればごみ、分ければ資源」と言われるように、古紙・衣類は分別すれば収益にもなり、ごみの減量にもつながる。コミュニティ回収を通じて古紙・衣類は地域の財産だと意識してもらえるようになった。

コミュニティ回収を始めたことで、地域でのコミュニケーションができ生活するうえで目に見えない繋がりができた。コミュニティ回収は地域が仲良くなるツールと言える。



古紙・衣類の持ち去り対策で資源の確保を

大阪市では、平成29年4月から古紙・衣類の持ち去り行為及び持ち去られた古紙・衣類の譲受け行為を規制し、平成29年10月から違反行為者に対しては、指導等を経たうえで過料を科すほか、氏名等を公表することとしています。

持ち去り行為者を目撃・発見した際には、直接声をかけることは避け、目撃・発見した場所、時間、特徴（車両ナンバー等）などを、お住いの地域を担当する環境事業センターまでご連絡ください。巡回パトロールや取り締まりに関する貴重な情報源となりますので、ご協力をお願いします。

